環境審議会議事録

１．日 時　　令和８年９月１７日（木） 午後１０時００分 ～ １１時３０分

２．場 所　　東別館３階 大会議室

３． 次 第

１）開会

２）部長あいさつ

３）会長あいさつ

４）自己紹介及び職員紹介

５）議事

市環境行政の現状について

・資料１、別紙１～３（騒音、振動、悪臭）

担当リーダー（以下リーダー）：資料により説明。

・意見質問

・委員：地下水水質検査の表の 5 番目の地点について、硝酸性窒素の基準値は 10mg が結果は 17mg ということだが、どういうことか。

リーダー：確認する。

委員：硝酸性窒素であれば、肥料が関係している可能性がある。地域的にそのような傾向があるのであれば、その点を考慮しながらモニタリングを行ってもらいたい。

・別紙４（し尿及び浄化槽汚泥処理量）

リーダー：資料により説明。

※意見質問無し

・別紙５（ごみ減量化資料）

・意見質問

・会長：リサイクル率の分母は家庭系ごみ、有料ごみ、資源物の合計となっている。可燃ごみについても分母に含まれているが、可燃ごみはリサイクルできるものではなく、分母に含めるのはどうか。

環境課長（以下課長）：リサイクル率は全ごみ量のうち、リサイクルできたごみがどの程度あったのかを示すものとして算出している。

・会長：山梨県は一般ごみの排出量を減らすと発表していたが、南アルプス市としては対応できるか。

課長：ごみの重量は減少傾向にある。また、ごみの量やリサイクル率は順調に推移しており、現時点では大きな心配はないと考えている。県から要請があった場合も、対応できるものと考えている。

・委員：南アルプス市のリサイクル率は低い状況。市内には資源回収センターなどがあるが、今後、市としてリサイクル率を向上させるためには、どのような取り組みが必要と考えているか。

課長：他県では市民と職員が一丸となって、かなり分別に力を入れている事例がある。本市においても、そのような取り組みが必要ではないかと考えている。
また、市内のスーパーやホームセンターなどでも、資源ごみを回収しており、市の回収量を上回る量の資源ごみを回収している店舗もあることが分かった。これらを含めると、市内のリサイクル率は約 20%まで上昇することが判明している。
そういったところが資源回収を行うようになってきたこともリサイクル率低下の要因の一つではないかと考えている。そのような中で、資源回収センターについても、より利用しやすくする方法を検討していきたい。

会長：概算でも良いので、店舗等が回収している量も資料に掲載し、市全体ではどの程度のリサイクル率になるのかを示せるようにした方が良い。

・別紙６（犬猫等に関すること）
リーダー：資料により説明
※意見質問無し

・別紙７（地球温暖化対策について）
リーダー：資料により説明
・意見質問
・会長：CO2 削減量について、この表だと削減量が大きく低下したように見えてしまう。各年の排出係数が異なるため、このように見えてしまうということを注釈等で示した方が良い。

6）閉会